

文庫あれこれ◆昨日、屋過ぎに伊豆高原駅に着きました。駅はたくさんの老若男女で賑わっていました。観光客がいると、何故かうれしくなります。◆今、土曜の朝、8時少し前、青空が広がってきました。今日も一日よい天気。庭のバラもサルビアも目にまぶしい。でも部屋の中はひんやりしています。凜とした空気もよいもの。東京では金木犀の匂いがただよっていたのですが、ここは?◆そう言えば、遠野では街路樹のナナカマドに紅い実が、そして家並みにイチイの実が鈴なりになっていて、とって食べたらとても甘かった、です。イチイ、というのは、英国の子どもの本によく出てくる木。◆新刊が20冊ほど、既刊の新本が数冊入りました。新聞の書評を読み、書店で手にとってから、購入しようと思っているのですが、忙しさに紛れ、ときおり、後悔するものもあります。子どもの本に多いのですが。◆数日前、NHK「そのとき歴史が動いた」をご覧になった方いらっしゃいますか?アイヌの伝承文学をアイヌ語だけでなく、ローマ字化して編纂し、19歳で亡くなった知里幸恵さんの話でした。長女が、母これすごいわよ、とネットで買った本を寄付してくれたのが、『アイヌ神謡集』でした。きのう、探しまわったのですが、見当たりません。どなたか借りてくださっているならとても嬉しいのですが。また、知里さんのことを書いてある別の本があります。『銀のしずく降る降る』(藤本英夫著 新潮選書)です。受付に預けます。関心のある方はお声をかけてください。アイヌという先住民族の文化を知るよい機会と思います。(あっ、台湾リスが桜の木に!)◆日曜は、おとなのための秋の夜長のおはなし会です。東京から70歳、85歳の方が語りにきてくれます。少人数でおはなしを聴くのもよいものですが、あまり少ないと語るほうも心もとないものです。帰りは足元が少々危ないと思いますが、ぜひ聴きにきてくださいね。◆クリスマスおはなし会は文庫の会員デビューです。お楽しみに!◆今回は会員の原稿が間に合わず私の埋め草で失礼しました。(西村)

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

秋の夜長のおはなし会

10月19日(日)夜6:00~7:45

★この日曜です。お誘いあわせの上、おいで下さい。あたたかい飲み物とお菓子を用意してお待ちしています。

クリスマスおはなし会・お楽しみ会

12月21日(日) 午前10:30~12:30

★子どももおとなもおはなし会

(文庫のおばさんたちが語ります)

★手遊び・わらべうた・合唱

★ケーキとお茶タイム

★プレゼント交換

(参加者は300円相当のプレゼントをご用意ください。)

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆11月は 第3土日(15,16日)です。

◆12月は 第3土日(20,21日)です。

◆来年1月も 第3土日(17,18日)です。

◆文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、

日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

♥文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日ではなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

みんなで勉強会

★11月は15日(土)です。

(11:00~13:00)

沙羅の樹文庫便り

No.26 (2008年10月号)



全日本語りの祭りに参加して、昔話のふるさと・岩手県遠野に行ってきました。季節も良し、天候も良し、人も良し、食べ物も良し、2泊3日のあいだ、心が広々、ゆったりしました。

リンゴ まどみちお作
 リンゴをひとつ ここにおくと
 リンゴの この 大きさは
 この リンゴだけで いっぱいだ
 リンゴが ひとつ ここに ある
 ほかに は なんにも ない
 ああ ここで
 あることと ないことが
 まぶしいように ぴったりだ

リンゴ畑でリンゴをもいでいる人がいて、その先に売店があって、リンゴを売っていました。この紅いリンゴは、あの木になっていたのだ、と当たり前のことに何故か感動してしまいました。(遠野の山端で)

新しく入った本(08.10)

～子どもの本～

<絵本>

『もけら もけら』(福音館書店): ジャズピアニストの山下洋輔の最初の絵本。1990 初版で昨年末で、29 刷。ことばの意外性とリズムで子どもに根強い支持を受けている一冊。『とんがとびがのプレゼント』(福音館書店 08): 『ぐるんぱのようちえん』の西内みなみぶん/ズキコージ絵。サンタクロースと暮らしているハリネズミの夫婦は一年かけてしたことは? 『おぼけのおつかい』(福音館書店 08): 西平あかね作。さくびー(姉)とたろぼう(弟)シリーズの一冊。文庫でははじめて。絵の中にたくさんの発見がある。『あっ! 雪だ』(福音館書店 08): みつけよう科学シリーズ。フランクリン・ブランリー作 ホリー・ケラー絵。雪って何かに、誰かに役立っているのだろうか? そんな疑問を教えてくれる絵本。

<読み物>

低中学年: 『ノンニとマンニのふしぎな冒険』(出帆新社 08): 70 年前に日本に牧師として滞在した牧師ヨーン・スェンソン作。アイスランドのアンデルセンと呼ばれた。体裁は絵本仕立てだが、読み物。『龍の子太郎』(講談社): 松谷みよ子の初期代表作の新装版。35 年前アメリカへ持って行った数少ない本のひとつ。日本が恋しくなると、4 人の子ども(上の子どもが小 1)に読み聞かせをした。『だれも知らない小さな国』(講談社): 日本のファンタジー本初期の傑作。このコロポックル(小人)シリーズは初版から 45 年、子どもたちに読み継がれ続けている。

高学年: 『人形の旅立ち』(福音館書店): 長谷川摂子作。絵本の作家かと思うほど、『めっきらもっきらどおんどん』『きょだいなきょだいな』等すばらしい絵本がありますが、長編はめづらしい。『京のかざぐるま』(日本標準): 吉橋通夫作。江戸時代、勝手放題の武士に対して、市井の小さな職人たちは頑張って腕を磨いていた。名もない若者たちの心意気を描いた短篇傑作。文庫になった本: 『半分のふるさと』: イ サンクム著 広島で生まれ 15 歳まで日本に住んだ著者の 2 つの国への思い。『ミス・ヒッコリーと森のなかまたち』: キャロライン・シャーウィン・ベイリー作。ニューベリー賞受賞。田園生活の喜びを描いたファンタジーの古典的作品。ともに福音館文庫。

～大人の本～

<現代小説>

『少しだけ欠けた月一季節風・秋』(文藝春秋 08): 売れっ子作家の重松清さんは、6.7 年前は働いている奥さんの変わりに子どもの保育園の送り迎えをしていました。少年の心をうまく描き出します。『名探偵クマグスの冒険』(集英社 08): 学生時代、南方熊楠伝(北上次郎著?)を読んで感動して以来、クマグスが出てくると、避けて通れません。『錦』(中央公論新社 08): 宮尾登美子著。女性が主人公ばかりの小説を書いてきた著者はじめての男性主人公は、女性の憧れの帯・京都「龍村の帯」を築きあげた創始者。いかように料理したかお楽しみ。リクエスト。

<時代小説>

『新三河物語 中』(新潮社 08): 宮城谷昌光著。先月の続き。下巻は来月在庫予定。『いのちなりけり』(文藝春秋 08): 葉室麟著 水戸光圀の書状が引き起こす男と女の数奇な運命…。

<外国小説>

『見知らぬ場所』(新潮社 08): ジュンバ・ラヒリ著 短篇集の傑作。『13 番目の物語 上・下』(NHK 出版 08): ダイアン・セッターフィールド著。全米ベストセラー No.1。『ジャック・ロンドン幻想短編傑作集』(彩流社 08): 特異な人間を描いたものなので、好き嫌いあるかも。

<エッセイ>

『四国八十八ヶ所 感情巡礼』(文藝春秋 08): 車谷長吉著。極楽へ往生することはない。地獄へ行ってもいい、と覚悟することこそが大事である、と長吉先生はのたまう。私も 46 から 48 歳までの 3 年間四国へ通い、歩き遍路を貫徹した。ひとりで歩いて恐い思いもしたし、不思議な体験もした。『誰も教えてくれなかった源氏物語本当の面白さ』(小学館新書 08): 林真理子×山本淳子

<ノンフィクション>

『名画の言い分』(集英社 08): 海外で学び、海外でかつやくする美術史家・木村泰司の初著作、というか講義録。彼の名画へのいざないをお受けください。リクエスト本。

<伝記>

『オーケストラ、それは我なり一朝比奈隆 四つの試練』(文藝春秋 08): 中丸美繪著 『青春の終わった日一ひつつの自伝』(洋泉社 08): 清水真砂子の 2 冊目の自伝。

<語り関係の本>

『昔話の旅 語りの旅』(アーツアンドクラフツ): 野村純一著。昨年亡くなった口承文藝民俗学の第一人者『復刻版 老嫗夜譚』(遠野物語研究所): 佐佐木善善著 金田一京助に日本のグリムと言わせしめ、柳田國男の『遠野物語』の語り手。遠野の語りを世に知らしめた。

旅2題 10月に入って2つ旅行をしました。初旬は、韓国濟州島への2泊3日の旅。これは夫さんが、老母たちを連れての旅(1年4回)を始めて、初めての海外旅行。10年前に、大病をした私の母は、90歳でまだ何とか存命で、ずっと若かった夫の母は5年前に突如逝ってしまいました。今では母の生命力をかき立てる麻雀旅行です。◆そんなわけで、ガイドも見ずに行ったのですが、濟州島は実に美しいのどかなところでした。辛いものが苦手な母は、それでは自分の食べるものがないと思ったかして、チゲ鍋にも挑戦。さむげたん?も喜んで食べていました。何と言っても海に囲まれた島。お刺身が歯ごたえあって新鮮でした。道は広く、両側にコスモスが咲き乱れ、歩道にむしろを敷いてゴマが干してあるのですが、誰も盗んでいかないそうです。宿で休むという夫と母を残して、同行した従姉妹と世界遺産めぐりをしました。案内してくれたタクシーの運転手さんは、ペ・ヨンジュンほかの映画ロケ地を勧めましたが。結局、洞窟と高い切り立った崖もあまり感動せず(日本でも、海外でももっとすごいところを見ていたので)、でしたが、一時代前の島の人々の暮らしを伝える民家と民具、そしてその歴史には、いろいろ感じるころがありました。大きな産業もないのに、観光で潤っているのでしょうか、全体的に裕福な街でした。オーシャンビューを望むホテルでの麻雀もなかなか・・・でした。夜、イカ釣り船の灯りが美しかった。島内に電車がなく、自家用車はみんな大きめ。停車するときは、未だ車道の脇に斜めにおいてありました。ここでは、長いこと馬が生活の根にあり、その馬がモンゴルからはるばるやってきた、と聞いて、昨年モンゴルで司馬遼太郎の韃靼疾風録の馬たちの子孫に乗ってちょこっと嬉しかったことなど思い出しました。◆もうひとつは、先週の連休。遠野への旅です。こちらは、そこで、語らなくてはならない、というプレッシャーを抱えての旅でしたが、冒頭に記したように、こちらもよい旅でした。伊豆もよいけれど、遠野は本当に山懐に包まれたのどかな、町ぐるみの人情もあったかで、心がほっこりするところ。ぜひ一度おでかけをお薦めです。近くに行くと宮沢賢治のところまでは行けなかったのが残念。表紙の写真にあるような、曲がり家がたくさん移築された遠野ふるさと村でそのひとつひとつに語りの部屋が設けられたのですが、民話の里、という感じがするでしょう?◆自分の語ることが気になってせっかくの遠野の人たちのお国語りを少ししか聴けなかったのですが、マイクを持って語る語りなれたおばさんたちより、私は帰りにちょっと寄った博物館で、坐って柱に耳を傾けると流れてくる素朴な静かな昔話が気に入りました。どんとはれ!